

令和3年産 紀南の梅産地情報

2021/07/20

「生産概況」

1. 今年の南高の開花期間は16日間と平年より5日程度短くなり、満開期は2月14日とほぼ平年並みとなった。授粉樹との開花がほぼ揃い、開花期間中の天候も安定した日が多く授粉環境が良好であった。収穫前の定点着果量調査では着果量は前年・平年より多かった。

出荷は小梅で5月10日、古城は5月14日、主力の南高は5月27日からそれぞれ始まり、4月中旬から5月下旬までは平年を上回る降水量により順調に肥大した。6月は降水量が少なくなり肥大が鈍化したが、初期肥大期の肥大が良好であったこと、着果量も多かったことから、本年の取扱量は多くなった。病虫害についてはスス斑病の発生が見られた。

2. 生産量は、小梅・南高とも前年より多く、平年並み、古城は前年より多く、平年より少ない見込みとなっている。

7/20日時点（生産見込量：トン）

品 種	3年産	2年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	811	341	802	238%	101%
古 城	436	172	578	253%	75%
南 高	21,965	13,831	21,950	159%	100%
在来系	467	216	490	216%	95%

「安全・安心対策」

J A紀南の安全・安心対策は19年目に入り、全出荷者の生産履歴の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析、GAP（農業生産工程管理）の自主点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動の中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。山畑等不安定園地での授粉対策や品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。